

# パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年6月1日 153号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



上段：パクー稚魚放流式典のバナー、下段左：放流式典で語る中田実所長と司会の佐野道准氏、下段右：放流式典で国歌斉唱

## 第四回パクー放流式 パラグアイ、レダにて

（中田欣宏理事長による報告） わずかな人数で休む暇もなく準備を進める中、五月五日、国会下院議長を中心とする議員団二十名の一行に代わり、急遽パラグアイ国家副大統領フアン・アフアラ博士と七名の国会議員が、セキュリティー・メンバーを伴って参加されることになりました。

他方、チャーター便では、アスンシオン大学獣医学部長アスセナ・カブレラ・ゴメス博士、同水産学科長、農牧省技術指導部長エリコ博士、同水産課長、アルトパラグアイ州選出下院議員アドルノ氏、州警察副本部長、オリンポ市長クエーラ氏、バイアネグラ市長、エスペランサ市長等、近隣のすべての行政トップが参加を希望。前日にはバイアネグラ海軍警備兵、州警察署副本部長他七名が、ボートや車で到着し、警備体制を整えていました。結果、随行警備チームを含め総勢二百名に膨れ上がり、主要メンバーの食事会の席がセツトできるか悩む状況でした。招待状一つで自ら参加を希望してこられた方々です。後は天候次第と祈っております。

**五月六日、放流式の当日** 朝三時過ぎ、落雷の音と共に雨が降り始めました。あわただしく対応を考え、この雨では飛行機の着陸が不可能と判断し、佐野さんがその旨を飛行機で出発する関係者に伝え、チャーター便はすべてキャンセルをしました。飛び立つ前に連絡する必要があるためです。

しかし副大統領機は、その後一時雨が上がったこともあり、あきらめずに自ら雲の状況をチェックし続け、その間同行のアドルノ議員からは、佐野さんに副大統領夫妻の搭乗前写真などを送ってきたりしておりました。そのとき初めて、夫人も同行されることがわかりました。

一方、レダ基地における準備サイドでは、たとえ主要ゲストが来れなくても、規模を小さくして、来られた人たちで放流式典を予定どおり実行することを決断し、それに向けた準備をしておりました。そこに副大統領一行の飛行機が飛び立ったとの連絡が入りました。副大統領が来られるとなれば、それなりの対応が必要で、再度緊張しながら到着を待っておりました。しかし到着の時間が近づくに激しい雨が降り始め、これは難しいと一同思っていました。（次面に続く）





20人乗り機の着陸前に、滑走路を丹念に整備。

(前面より続く) そんな中で一人、州警察副本部長は「問題ない、降りられる」と主張していました。でも、さすがにパイロットがレダ上空で判断し、引き返しました。

**結 束** これらの一連の動きを見ながら、一様に副大統領はじめ中央政府、近隣首長、大学関係者、日系社会、それに住民も含め、すべての人々がレダに行きたいと心惹かれる状況になってきていることを感じておりました。これも又意味あることと考え、この試験はより大きな祝福のためであると、粛々と成すべきことに向かつて前進しようと、私たち一同結束しました。

「コソコソ積み上げた十六年余りの精誠が人々を振り向かせ、行ってみたいと思うようになってきました。逆境に



放流式典の終了後、にこやかに記念撮影。

放流式典の終了後、にこやかに記念撮影。

急遽佐野さんが司会を担当しました。

最初に、中田実南北米福地開発財団理事長が歓迎の挨拶、「この見捨てられた地、されど創造の時の無垢な姿を残す美しいパンタナール、レダでいかにパラグアイの為になるかのみ考えてきた十六年余りでありました。学校を改築し教育の支援を

においても平然と前進するものを天は願う」と、中田所長はメッセージを発しながら、先頭に立つて、ぶれることなくプロジェクトを進めてきました。今回レダを訪れた人々には、再び機会をつたことで心残りした人々には、再び機会をつくり、より深い絆につなげていこうと話し合い、そして世界の人々が行きたくなる地にしようとした決意をいたしました。

**放流式典** 船などで来られた百名弱の人たちが参加し、式典は十一時より予定どおり始まりました。予定した司会者が来られなかったため、



第四回パクー稚魚放流式典を開会する。



副大統領一行のため派遣された警備隊。



パラグアイ川にパクーの稚魚を放流する。

し、木を植え、環境問題に取り組む、文先生の海洋摂理による万民の救いを実現するため、アスンシオン大学の全面的な協力のもと、パクーの養殖に取り組み、孵化を成功させ、パラグアイ川に放流し、失われていく資源の回復に取り組む四回目を迎えました。これからは一層地域の皆様と共に成長していきたいと思えます」と語り、大きな拍手を受けました。

続いてマグノ教授が「南北米福地開発財団と大学が共に成長してきました。(次面に続く)



パラグアイの民族ダンスの練習中に。



近隣の村々から船でやって来た若者たち。





200名の食事を準備する台所スタッフ。



ゲストのために、アサードを準備中。

(前面より続く) 他では考えられない、全く特別な地です。本当に感謝しています。レダの人々は、信じて言ったとおり、すべてやってくれ、毎年新しく前進していることが嬉しいです。今年から放流魚にタグをうち、パクーの生態調査を開始します。きょう、デモストレーションをして皆様にご説明いたします。今回で十八万匹を放流したことになります」と述べました。

このあとオリンポ市会議員、米国、日本の代表、パラグアイ女性連合会長の挨拶があり、最後にエスペランサ村の村長が「私たちにとって、ここレダの人たちは、他の団体と違って、いつも我々のことを考えてくれている、本当に信頼できる人たちで、心から感謝しています」と最大の感謝の言葉を述べて締めくくりました。次いで、オリンポの青年たちによる民族舞踊が披露されたあと、記念撮影をし、待ちに待った昼食となりました。全参加者が食堂と一緒に食事を楽しむ初めてのひと時となりました。

**タグうち** 食事の後、雨が降ったり止んだりの中、「パンタナル研究所」の前に集まり、マグノ教授による「タグうち」の意義とデモンストレーションがありました。今回はかなり気合が入って準備万端だっただけに、副大統領一行も、大学の学長もおらず少し残念だったと思



稚魚と一緒に放流する魚には印がついています

背ビレの下に、青く見えるのがタグ。

次回の孵化(放流の約五六か月前)後の適期に行うようになる予定です。年ごとに取り組みが前進していることに希望を感じるとともに、レダの中田所長をはじめとした皆様に、感謝の言葉が尽きません。本格的な大学との共同研究の出發です。放流記念のTシャツには、文

いますが、熱心に行い、参加者も熱心に見てました。途中雨が強くなっても、少し場所をずらして、変わらず実行です。ここで放流したパクーがどこまで回遊しているか、その間どれだけ成長しているかを調べる。放流前の体長と体重、個別番号を記録し、同じ番号の記入されたタグをパクーにうち、放流する。釣り上げた位置を記録、その時の体長、体重を計り比較する。この調査を積み重ねていくことになりま

す。今年は、調査放流魚が五〇匹ですが、次回は二〇〇匹を実施する計画です。予定としては、



上：パクーの計測。下：タグの打ち込み。



プエルト・ヌエボの基地を視察。



エスペランサ村のチーフを訪問。

先生ご夫妻のお写真を入れました。参加したすべての人々は皆、警備スタッフから州警察副本部長まで、喜んで早速着ていました。この日はぬかるみがあったので、放流自体は七日午後一時五〇分から、残ったメンバーで行いました。

また副大統領ご一行ほか、今回参加できなかった主要ゲストの皆様については、日を改め再度ご招待していく計画です。一〇万匹の放流は完了です。七日のラジオナショナルの番組に、佐野さんが出演し、インタビュに答えました。この放送局は日本でいえばNHKラジオのよう

なところ(以上、中田欣宏理事長より)



パクーの元気に、見学者たちも驚く。



パクーの飼料となるシロロウヤシの実。



# 第11回パンタナール1Dayセミナーご案内



桜並木の下で開催された第10回一日研修会。

世界平和と地球村の建設と地球環境の保護に真向から取り組む、パンタナール・プロジェクト。本質的かつ現実的なパンタナール精神で積み重ねて来た成果は、現地住民や政府によって最も身近に観察され、評価されてきました。パンタナール一日特別研修会（ワンデイセミナー）は、その開拓精神と、根拠ある希望とを共有するために開催されます。

**日時** 二〇一六年八月六日（土）十時より受付、十時三十分開始、午後五時終了。  
**会場**（予定）国立オリンピック記念青少年総合センター 国際棟二階セミナールーム（会場は、変更されることがあります。）  
**参加費** 二〇〇〇円（昼食を含む）  
参加を希望される方は、八月一日までに、別紙の応募用紙に必要事項をご記入の上、ファックスかメールで下記の当法人事務局までお送りください。

## プログラム（予定）

- 「レダ開拓と福地建設の歩み」  
講師 柴沼邦彦 当法人理事
- 「地球環境問題救済の道」  
講師 高津啓洋 NPO代表

**参加者の感想より（抜粋）** ● 良いものも悪いものもすべてを飲み込む、それがパンタナール精神。文先生の教えをその如く実践してきたその実体が、まさしくそこにあると実感しました。（第9回参加女性）● 何もないところから少人数で可能性のある地にしたのはすごいと思いました。私もこのような活動を通して世界や人の役に立つ人間になりたいと思いました。（第8回参加 22歳男性）● 柴沼先生の講義、高津先生の屋外植生実地講座、とてもよかったです。養豚の証もよかったです。レダの話はいつも希望的で心が温かくなります。他の幸福のために生きる精神を実践するレダだからこそ本当の感動を与えられるのだと思います。（第7回参加 55歳女性）● 二回目の参加です。前回参加した時も、見捨てられた地が、レダプロジェクトによって着実に建設が進み、発展していることに感動しましたが、一年もたたないうちに何倍も大きな花が咲いていることを知り、これは空論ではなく、具体的なことなんだと実感し、うれしく思いました。（第6回参加 65歳男性）

## 第十六回国際協力青年奉仕隊活動へのご支援をお願い致します！

今年の第十六回青年奉仕隊の活動地は、パラグアイ共和国、パンタナール地域です。青年奉仕隊員たちが、できるだけ多くの住民に、より



手形で描いた愛の樹（ディアナ）

多くの時間、奉仕できるよう、ご支援をお願い致します。使い残された、はがき、年賀はがき、書き損じはがき、未使用の切手などを下記の事務局までお送りください。また支援金も感謝してお受けいたします。

支援金送り先 郵便口座 記号一〇二八〇  
番号六一三四九七五一 一般社団法人 南北米福地開発協会

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: http://asd-nsa.com

## 会員種別

◆ 会員一口1000円/月

◆ 特別会員一口1万円/月

◆ 法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

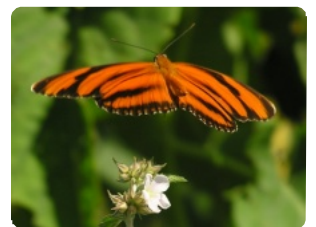
00290-5-113072

加入者名: シヤ 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

## お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。